

「多職種連携 認知症支援のための事例検討会」(令和6年度6月29日) のアンケート結果について

令和6年6月29日(土)阿倍野区役所大会議室にてテーマ「センター方式を使って本人の気持ち家族の気持ちを考えてみよう」を実施しました。医療・介護・福祉の各分野から多職種の皆さん(総勢59名)にご参加いただき感謝申し上げます。

今回は、本人や家族の気持ちを考えるツールとしてのセンター方式を学び、事例をセンター方式で本人や家族の思いを(1)私の不安・苦痛悲しみは(2)私の嬉しいこと、楽しいこと、快と感じること(3)私の関わり方や支援についての思い(4)私のやりたいこと、願いをそれぞれに「本人のことば」「家族のことば」でありのままを書き出してもらい、その言葉から考えられる、意味や背景を多職種で考えてもらうグループワークを行いました。

各グループからの意見も、グループ内の職種の違いでとらえる本人家族の背景や気持ちが変わることを認識してもらえました。

現場で意思決定支援を多職種で行うことが今後増えていきます。一つの機関や、一人で本人家族の気持ちは、「こうなんだ」と決めつけることなく、多職種で話し合い共有することの大切さを感じていただけたと思います。

参加者の感想では「自分が見えない本人の姿を知れるシートだと思った」「多職種が協働することで見えてくる本人の思いが、より広がるのがよくわかった」「本人のことばの裏、本当の意味をくみ取り想像していくことの重要性を再認識しました」などの声をいただきました。今後認知症の方々の意思決定支援に大いに役立てていただければと願います。

認知症強化型地域包括支援センター 大石

沖田裕子先生からのコメント

センター方式で事例を深めるためには使いこなせるとよいと思います。使い慣れることが大事になるので、具体的な事例でセンター方式を使ってみませんか。

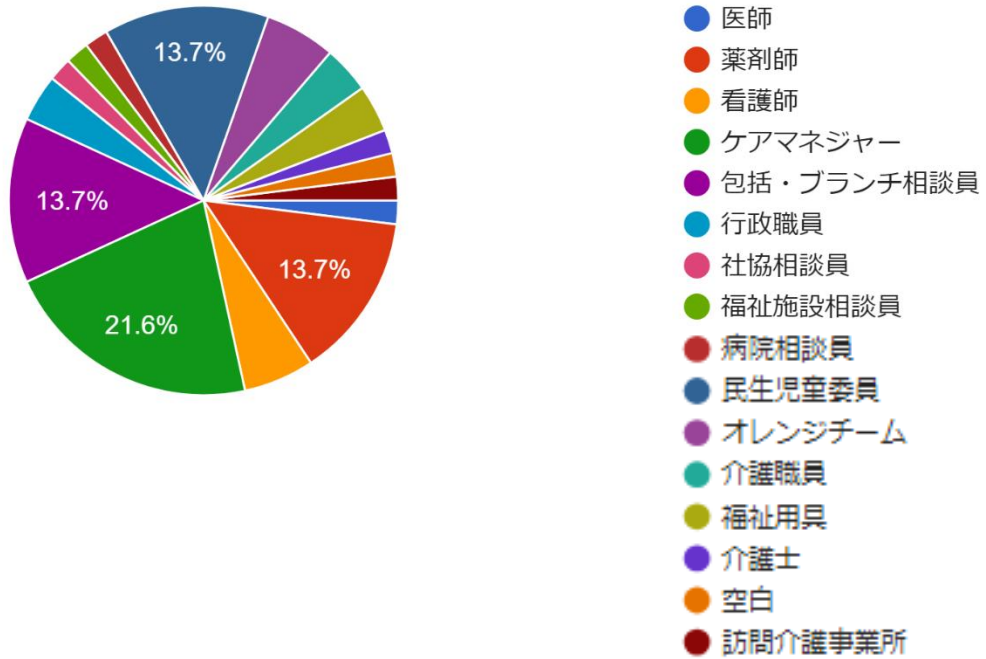
支援困難事例、認知症高齢者、若年性認知症等にかかる相談などスーパーバイザーとしてうかがうことができます。大阪市社会福祉協議会が行う、「地域包括支援センター連絡調整事業スーパーバイザーによる専門相談」を活用ください。

- ・SV：沖田裕子
- ・日時：要相談
- ・場所：要相談

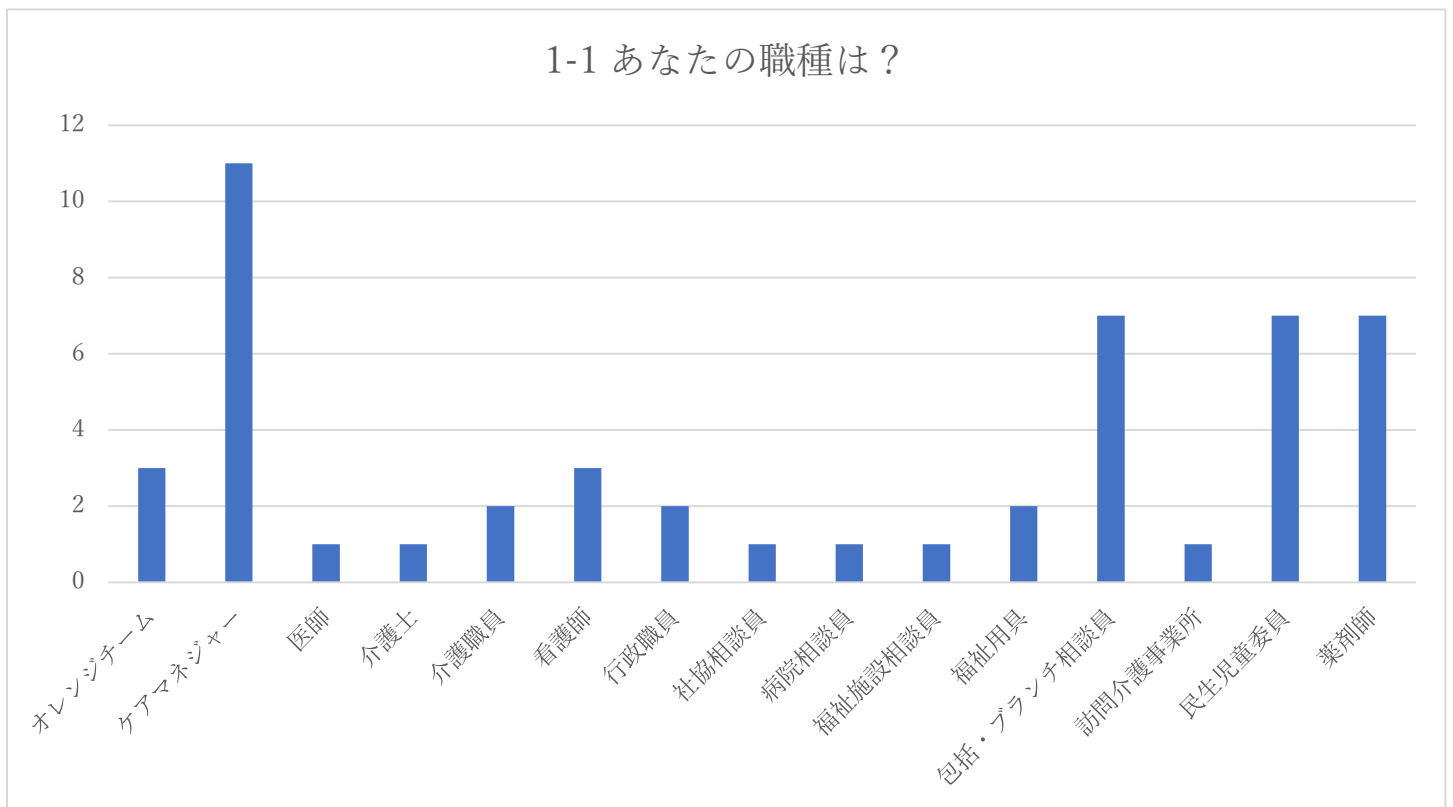
まずは、阿倍野区認知症強化型地域包括支援センター(認知症地域支援推進員：大石 TEL6628-1300)へ連絡してみてください。

1 あなたの職種は？

51件の回答

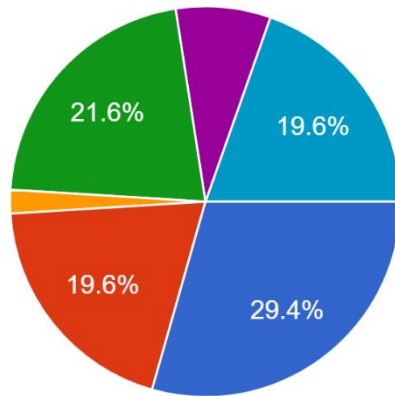


1-1 あなたの職種は？



2 経験年数は？

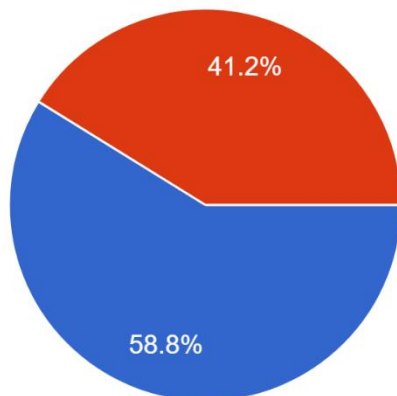
51 件の回答



- 1年～5年
- 6年～10年
- 11年～15年
- 16年～20年
- 21年～25年
- 26年以上

3 本日の事例検討会は理解できましたか？

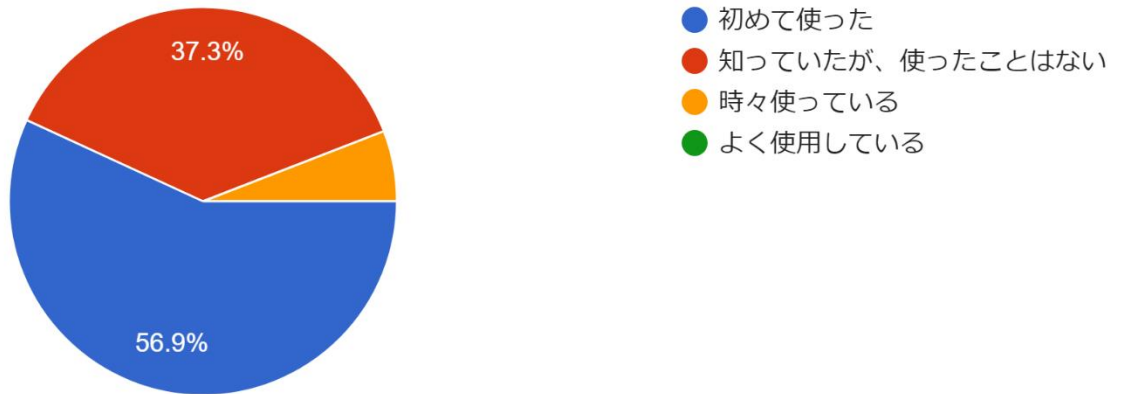
51 件の回答



- よく理解できた
- だいたい理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

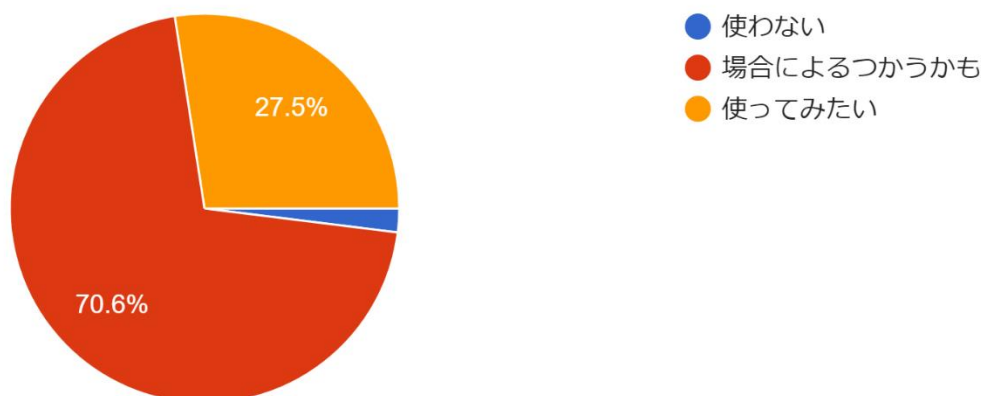
4 「センター方式シート」をこれまでに使ったことがありましたか？

51 件の回答



5 「センター方式シート」を使ったことがなかった方へ、今後についてお尋ねします。

51 件の回答



6 本日の事例検討会の感想があればご記入ください。（沖田先生へのご質問などもあれば）

1時間半では無理だと思いますが、多職種連携をもっと実感できればよかったと思います。多職種のパネルディスカッションなどかあっても良かったと思いました。
ありがとうございます。
いろんな立場の方々の声が聞けたのは良かったと思います
このシートを専門職で作成する…自分が見ない本人の姿を知ることができるシートだと思います
センター方式の活用法を知って良かったです
センター方式や初めて知る事も多く勉強になりました。
センター方式を初めて使ってみて貴重な体験ができて良かった
その人の思いを考える際、同じ職種だけで検討するのではなく、多職種が協働することで見えてくる本人の思いがより広がるのがよくわかりました。今後、支援に困ることや考えたいケースがあった際には活用していきたいと思います。
皆様の違う考え方を知る事ができて良かったと思います。センター方式で本人の想いを想像し、何を望んでいるか。。。自分だけで考えるより多くのことが分かり支援に繋げるのではないかと思います
思いからの意味や背景から想像するという事は何が言いたいかをイメージする事が必要であると思うが決めつけにならないようにする事が重要だと思う
接し方の方法が見えてきたような気がします
多職種の方からいろいろ話を聞いて勉強になりました。本人の言葉に耳を傾けていきたいと思います。ありがとうございます
多方面での意見が聞いて良かったです
知らない方の想像の中での研修、良かったです
当事者の言葉を中心にみんなで本人の思いをはせることでいろんな可能性が広がる事が分かった。また「認知症だから」という言葉で本人を抱んで、本人が見えなくなる、見失う自分にも気づいた。
当事者の本当の言っていることを読み取る
認知症の方本人の気持ち、真意を想像する事が大切である。関わる職員の向き合い方、姿勢が変わると本人も変わる。
本人のことを知らない人に意見を出してもらうことの大切さを学ぶことができました
本人の言葉の裏、本当の意味をくみとり、想像していくことの重要性を再認識しました。
本人の言葉を聞くこと あらためて勉強になりました。
本人や家族の発言から想像をふくらまし、支援に活かす方法を学ぶことができて良かったです。
様々な気づきがありました。ありがとうございます。自事業所での検討会にも活かしていきたいと思います。
利用者の言った一言が、どういう意味を持つのか、想像することはありましたが、受け取る側の人の数だけ、考え方があり、たくさん考えの中から利用者に答えを出していただく…と言うことが新鮮でした。是非実践します！！